

令和4年度 学位授与式告示

九州産業大学造形短期大学の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日、皆さんはここに「短期大学士(芸術)」の学位を取得し、巣立って行かれることになりました。皆さんの短大の2年間はマスク着用、遠隔授業、教室の人数制限等、感染対策の中の学園生活でした。本学では実習授業を中心に対面授業を軸としながら、我々教員としても様々に工夫を重ね、取り組みを行ってまいりました。本年度は香椎祭を対面で行うなど、大学生活も徐々に本来の姿に近づきつつあります。卒業生諸君も、それぞれに困難な状況を乗り越え、今日を迎えられたと思います。

「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。「禍福はあざなえる縄のごとし」、これから皆さんが生きていく社会において、いいことばかりも、そして、決して悪いことばかりもありません。悪いことだと思ったことがいい結果につながったり、またその逆のこともあるかもしれません。次のステップでも、起こったことに一喜一憂すること無く、目の前の課題にまっすぐ誠実に取り組み、着実に歩を進めていただきたいと思います。「コロナ禍」での苦労した学びで培ったことも、必ず皆さんの力になります。

これから皆さんが生きてゆく社会は、「コロナ後の社会」等といわれ、DX(デジタルトランスフォーメーション)への加速度的な進化や、SDGs、持続可能な社会づくり、そして複雑化して行く国際情勢などと相まって、大きな変革期を迎えていくことになります。働き方も変わってゆき、時間的、地域的な自由度が増してくることにより、人々にとって「人生の目的」や「生きがい」といったことが、その重要性を大きく増してくると考えられます。まさに、皆さんが身につけた「創造力・生み出す力」そして「表現力・発進する力」が社会に求められるのです。それが、心豊かな人々の暮らしを形作る原動力になっていかなければなりません。今後は様々な社会の局面で、皆さんが本学で培ったその能力を生かし、活躍する社会になっていくのです。

これからの社会がその姿を変えてゆき、それが明るい未来なのか、あるいは様々な課題が現れて来ることになるのか、未来を予測することは容易なことではありません。しかし大切なことは、皆さんにどのような未来が訪れるのか、では無く、皆さんがどのような未来を作ってゆくのか、ということだと思います。未来の世界を形作っていくのはあなた方自身なのです。皆さんが身につけた「創造力」と「表現力」を武器に、自分自身の未来を、そして社会の未来を切り開いていただきたいと思います、これが私の願いです。

今後も何か相談したいことや報告などがあれば、ぜひ短大に顔を出してください。先生方や事務室のスタッフはいつでも皆さんの相談にのりますし、できるだけサポートをいたします。これからも短大を大いに活用してください。

結びに、保護者、ご家族の皆様、卒業生や大学を支えていただいている様々な関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、卒業生の皆さんのご健康とご活躍、そしてその揚々たる未来を心からお祈りし、卒業をお祝いする言葉といたします。

令和五年三月十七日

九州産業大学造形短期大学部学長 小田部 黄太